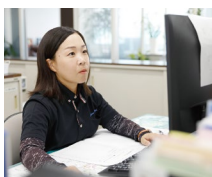


現場で歴史に名を残す “ドボジョ”として活躍

県内の公共の土木・舗装工事や宅地造成、駐車場舗装などを請け負う三浦国土建設。1972年の創業以来、現場に立つ社員はすべて男性。その中で初の女性として手腕を発揮する。

現場に立つことを夢に掲げたのは高校の実習で工事現場を見学してから。「格好いい。トンネルやダムなどの現場に携わる方を見てそう感じました」と目を輝かせる。大学在学中に出産、結婚を経験。入社時は「母として歴史に名前を残す仕事をしたい」と社長に宣言した。

入社後の3か月間は現場で作業員たちの働きぶりを見る日々で、その後は下水道工事の現場で、記録写真の撮り方や現場管理について知識を積んだ。目標や働き方を社長と話し合った結果配属されたのが、工事部の品質管理。建設業においては、通常の施工とは別に、出来上がったものの品質を保証して発注者に返す作業が重要になるが、それを専門とする業務だ。



師匠と仰ぐ熟練の先輩について現場をまわり経験を積んだ。たとえば舗装工事であれば、アスファルトの厚さの密度は基準値を満たしているのか。そういった検査のほかにも、社員と下請けの作業員の調整、道路改良工事を行う際の民家への挨拶など、知識や経験に加えてさまざまな力量が試される。

力作業や厳しい上下関係というイメージも抱かれがちだが、「全然そんなことはないです。皆さん優しく一から十まで丁寧に教えてくれます。今の現場では住民の方へ挨拶して、世間話が広がるのも楽しい」人なつこい笑顔で先入観を払拭してくれる。

家庭との両立が 職場にも変化をもたらす

入社2年目で第2子を出産。男社会だけに実質稼働していなかった育休や産休制度を取得。復職後は1年間

のデスクワークを中心に働き、2年目から現場を増やしていった。現場に出ていると子どもの病気で保育園から呼び出されることも。「まわりが『子どもが一番やけん帰りよ』と気にかけてくれます。『家に帰っても仕事があって大変やなあ』という言葉をかけてもらうだけで温かい気



持ちになります」。長く働けるコツはと問えば、「仕事が好き。会社も好き。家に帰ってからのの方が大変です」と冗談半分に笑う。今後は一級土木施工管理技士の資格を取得し、子どもが巣立ればより大きな現場を一人で管理できるようになりたいと見据える。気晴らしは中学生の時から続けてきたソフトボールで、年に数回地区の大会に呼ばれ体を動かす。「寝る前に甘口のワインを飲む時間も至福の時です」。

W ONDERFUL WORKING WOMEN 03



PROFILE

二宮 愛莉さん
AIRI NINOMIYA

三浦国土建設株式会社
工事部 品質管理 主任
大分県立大分工業高等学校
土木科、日本文理大学工学部
建築学科卒業。2016年入社。
下水道工事の補佐の後、
工事部品質管理に配属され、
この春から主任。管理で携わる
県内の現場は大小あわせて
年間で100を超える。小学2年
生と3歳の娘の母。

おおいた女性活躍
推進宣言企業

女性の存在が建設業の未来を変える

働き方や福利厚生に対する考えの転機となったのが、二宮さんの入社だった。まだ小さい子どもの母として入社。月に2回の朝礼は7時スタートで保育園も開いていないため、朝だけ子連れで出勤していた。「ラジオ体操に小さい子が混ざって挨拶をするうちに、自然と職場が柔らかい雰囲気になりました」。ミスのない書類づくり、現場に出れば地元住民との交渉にも長けており、男性にも好影響を与えている。

タイミング良く二宮さんの採用と同時期、発注者にも女性職員が増えた。「女性同士なのですぐに仲良くなって、同じ目線で細やかにやり取りをしてくれます」と評価する。

女性が活躍すればこの業界はもっと進化できる。女性が現場に増えれば作業服や手洗場も変わるなど、好循環へつながると期待する。

女性の活躍推進と同時に平均年齢28歳という組織で、若手社員が働きやすい環境づくりもすすめる。外部講師のコーチングによるメンタルのケアや、iDeCoやNISAの全社員分積み立て、個人と直接契約の生命保険。子育て世帯にも配慮し、社長自らが保育園探しを手伝い、人事の工夫で急な欠勤や早退にも対応できるようにするなど、未来を見据えた改革に力を注ぐ。



PROFILE : 三浦 宏之さん : 三浦国土建設株式会社
: HIROYUKI MIURA : 代表取締役社長